

えほんのおみやげ通信



サンガこども園

2016年1月1日(金)発行 サンガこども園

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

サンガこども園で定期購読しています福音館書店の月刊幼児絵本「こどものとも」1月号の紹介。

<p>こどものとも 0.1.2 10ヶ月～2歳向き</p> <p>「ことりさん かくれんぼ」 うえのりお作</p> <p>ことりさんが、赤い花の咲く庭でかくれんぼしてるよ。どこにいるのかな？ あ、いたいた。次は、緑の野原でかくれんぼ。どこにいるのかな？ あ、いたいた。みつけたよ。</p> 	<p>こどものとも 年少版 2～4歳向き</p> <p>「ねんころりん」 きむらよしお作</p> <p>ひまわり園は、お昼寝の時間です。「ねこねころんで ねんころりん」・・・「ね」のつくものがお昼寝をはじめます。さあ、みんなよく眠れたかな？</p> 
<p>こどものとも 年中向き 4～5歳向き</p> <p>「りゅうになりそこねたハブ」～ 沖縄の昔話 ～ 儀間比呂志文・絵</p> <p>貧しい青年カナーは、ハブ（蛇）が天に昇って龍になろうとすることを見て声援を送りますが、ハブにはその姿を人間に見られてはいけないという掟がありました。</p> 	<p>こどものとも 5～6歳向き</p> <p>「かげええほん」 こんどうりょうへい作 /かきのきはらまさひろ構成 /やまもとなおき写真</p> <p>「このかげ なんだ？」と次々に登場する影絵。なんの形かなと想像してページをめくると、そこにはおかしな格好をしている人間たちいます。</p> 
<p>ちいさなかがくのとも 3～4～5歳向き</p> <p>「バス はっしやしまあす」 三宮麻由子文 /たしろちさと絵</p> <p>「はっしやしまあす」「まがります」 「きゅうていしやします」——バスが動くと、ぼくの体もゆれるよ。前へうしろへ、右へ左へ！</p> 	<p>他にこんな絵本も購入しました。</p> <p>「おもちのきもち」 かがくい ひろし</p>  <p>3歳から 講談社</p> <p>かがくい ひろし 【作・絵】</p> <p>ついに語られる、おもちの告白とは？相手の気持ちになつて考えましょう、なんて子どもに教えている大人たち、「おもちのきもち」を考えたことがありますか？「気が付くとわたくし、何度も頭をたたかれておりました。」 おもちつきの様子をそう語るの、田吾作さんちのかがみもち。今のところは床の間に飾られて大事にされているものの、のぼされたり、ちぎられたり、食べられたりしている兄弟たちの姿を見て身の危険を感じ、逃げ出して……。さあそれから、かがみもちの大脱走が始まります。変わり果てた姿のかがみもちの前で首をかしげる村人たち。なぜそうなったのか、真相は？</p> <p>※年齢は目安です。</p>

【雑感】

パソコンやスマホに向かう時間が長くなるにつれ、読めても書けない漢字が多くなった。何でもすぐにネットで検索して「分かった気」になるが、すぐに忘れてしまう。元旦には裏面どころか宛名も印刷した年賀状が届くことが多くなった。

インターネットという情報を手にした私たちは、それ以前の人たちより良い仕事ができているのだろうか。おせち料理も「昔は作った」、キモノも「昔は着た」という人は多い。なぜ「今」は作らず、着なくなったのか。より便利な方法、楽な衣服を選択してきたからではないだろうか。

では楽を選択して時間を省いた末、その時間を有効に使っているだろうか？「てまひまかけて」やることを少しずつ見直してはどうだろう。どんなに効率が悪くても、そのプロセスには必ず意味があるからだ。